

成田クリーンパークの全体図

空港会社と市は右図の「全体を囲む遮水壁」でなくわずか60メートル長の「浄化壁」で安全と主張している。「金がかかる」「空港進入灯に近い」が理由だが、空港の利益と住民の命と健康、一体とどちらが大事なのか



■成田市と空港会社は、関係住民の反対を押し切って3月に成田クリーンパークを閉鎖しようとしています。市自ら報告書で「地下水の塩素濃度が高い」「汚染の可能性があると認めておきながら、「全量撤去」を拒否し、毒物を埋めたまま土を盛り、閉鎖しようとしているのです。

■公開質問状に対する回答（2・23）では、「不測の事態の対策を講じているから問題ない」旨述べています。しかし、報告書の対策ではおよそ住民の健康は守れません。

小泉市長の住民無視許すな

■「対策」とは上の地図にある浄化壁のことです。クリーンパークの全周800メートルを囲むのではなくわずか60メートルの壁を造るだけ。地中にはダイオキシンが埋まっています。「より安全」と市も認める全体を囲む壁をなぜ造らないのでしょうか。「空港の進入灯が接近している」「金がかかる」というのがその理由。要するに北延伸の09年開業に間に合わないというのが本音です。空港の利益と騒音下住民の命・健康とどちらが大事なのでしょうか。小泉一成新市長の住民無視に怒りを抑えることはできません。

今からでも北延伸阻止は可能。反対同盟はあくまでクリーンパークの空港用地転用に反対して闘います。

「地下水汚染の可能性」毒物丸ごと埋めるのはなぜ？

住民の健康より空港の利益

ダイオキシンはどうなる?!

三里塚芝山連合空港反対同盟

（連絡先）事務局長・北原鉦治 成田市三里塚115

東峰の森伐採許すな 入会林は部落の命

2月26日、空港会社は東峰の森伐採の準備工事着工を強行した。細い黒線がフェンス工事、太い線が新誘導路。森は破壊され部落の西半分が空港の中にとりこまれる



東峰地区が育て管理してきた入会地「東峰の森」が切り倒されようとしています。N A Aは2月26日から、伐採のためのフェンス工事を開始しました。空港の誘導路を造るためです。写真を見て下さい。地区の西半分が空港の中に取り込まれるという前代未聞の暴挙です。

東峰の森は大正期から、この地域一帯の入会林として育てられており、東峰地区はその真ん中に入植しました。以来、50年余、地区にとってなくてはならない命の森です。その森が切られれば、堆肥用の落ち葉集めやキノコ床を造ることができなくなるだけでなく、森が果たしてきた保水、防風、防音の役割がなくなり、地区は深刻な打撃を受けるのです。

しかも空港会社は過去3度「緑化計画の一環として残します」と地区に約束してました。それを踏みにじったのです。東峰区と反対同盟の怒りは頂点に達しています。40年間、住民をだましつづけてきた背信をまたくり返しています。反対同盟は森伐採阻止へ闘います。

耕作権取り上げの裏に農地法廃止の動き 市東さんの畑守ろう

農地法で農地を奪う、市東孝雄さんの耕作権裁判が2月19日始まりました。日本の農業全体を守るためにも負けられません。農水相は1月29日、市東さんの不服審査請求を却下し、「耕作権取り上げ」を認めました。「農業と農民を保護するはずの農地法や農水相がなぜ私の畑を奪うのか」。市東さんは怒りを語っています。

この背景には農業つぶしの政策があります。財界は「300万農家を14万経営体にする」「農地法を廃止して企業の農地取得を」「食料自給はできなくていい」（日経＝06年5月）という、末期的な農業つぶ



誘導路を「へ」の字に市東さんの畑に

しを言い出しています。その先端がトヨタの車の代わりに農産物を輸入する豪州FTAです。このままでは日本から本当に農業が消えてなくなります。市東さん問題は農業破壊との闘いです。反対同盟は農業を守る先頭に立ちます。